

独立行政法人大学評価・学位授与機構評議員会（第22回）議事要旨

1 日時 平成23年3月18日（金） 持ち回り開催

2 出席者（回答者） 有信、小出、高祖、郷、榊原、佐々木(毅)、佐々木(雄)、白井、関根、納谷、濱田、林、松本、マルクス、丸本、村松、森脇、矢田、の各評議員から回答が得られ、独立行政法人大学評価・学位授与機構評議員会規則第5条第1項により議決は有効となった。

3 評議員会（第21回）議事要旨について

平成22年6月29日に開催された評議員会（第21回）議事要旨（案）が確認され、確定版として了承された。

4 議事

(1) 平成23年度以降の組織体制について

平成22年12月7日に閣議決定された「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」等を踏まえた機構の組織体制の見直しについて審議が行われ、原案どおり承認された。

主な意見は以下のとおり。

○ 各種認証評価機関のうち、しっかりした研究部門を持ち、活動しているのは本機構であるので、適切な対応だと思案する。

○ 国際連携は今後益々重要になると考える。研究開発部と国際連携企画室が十分に機能するように配慮願いたい。

(2) 学位審査会審査委員の選考について

学位審査会審査委員の委嘱について審議が行われ、原案どおり承認された。

(3) 平成23年度年度計画について

平成23年度の年度計画（案）について審議が行われ、原案どおり承認された。

主な意見は以下のとおり。

○ 震災後の状況に対応した適切な実行を進めてほしい。

○ 内部統制について、監事と内部監査部門の連携は重要だが、双方の監査の視点は異なるので、配慮願いたい。

(4) 認証評価手数料規則の一部改正について

機構が実施する大学機関別認証評価事業の認証評価手数料に関する規則の改正について審議が行われ、原案どおり承認された。

(5) 報告事項について

「行政刷新会議による事業仕分けを踏まえた対応について」、「平成23年度予算（案）について」、「評価事業における結果について」、「学位授与事業における結果について」それぞれ報告が行われた。主な意見は以下のとおり。

- 予算についての説明がやや少ないと感じた。
- 「仕分け」による結果と政府の方針のもとで検討を重ねていることに頭が下がる思いである。
- 厳しい状況下にあると思うが、大学評価事業、学位授与事業を日本の大学の質向上のために力を合わせて取り組んで頂けることを期待している。
- 機関評価を民間の競争に任せるとするのは暴論。質保証を伴う公的評価のあり方を含めて機構が先導的役割を果たす必要がある。海外との連携も不可欠なので、民間だけでは無理。